OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	吐魯番出土文物研究会会報　第52号 ： 榮新江先生来日号
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1991, 52, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78863
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

吐魯番出土文物研究会会報　第５２号

１９９１年1月1日　榮新江先生来日号

吐魯番出土文物研究会

＊榮新江先生の来日

【は　じ　め　に】

北京大学中国中古史研究中心の副教授で、敦煌研究院の兼任副研究員でもある榮新江先生が龍谷大学の招きで、昨年八月末に来日され、この二月末までの半年間の予定で日本に滞在されています。先生は主として龍谷大学で研究に従事されているほか、昨年一一月一九日（月）から三〇日（金）までの一二日間、上京して東京大学東洋文化研究所、同文学部、東洋文庫、東京国立博物館、および静嘉堂文庫などを訪問され、資料・文献の蒐集にあたられました。この間東京で、「「唐開元廿九年（七四一）西州籍」について」（一一月二四日〈土〉　於東京大学東洋文化研究所）、「九、十世紀歸義軍時代の敦煌佛教」（同月二六日〈月〉　於駒沢大学仏教学部）の二講演を、またその後京都でも、「現代中国における中央アジア研究」（一二月三日〈月〉　於京都大学人文科学研究所）、「中国敦煌吐魯番研究現況」（同月一八日〈月〉　於龍谷大学文学部）の二講演をされています。なかでも東大における講演は、いままで紹介されていなかった北京大学図書館所蔵の表題にある三件の戸籍断片に関するはじめての紹介であり、かつ復元作業としてきわめて注目される内容のものでした。

吐魯番出土文物研究会では、先生の上京期間中である一一月二二日（木）に、在京の会員が集まって懇談会をもちましたが、ここには、先生ご自身から提供していただいた資料をもとにして、先生の略歴と著作目録を掲載することにしました。

◆榮　新　江　先　生　略　歴

1960年３月18日、天津市生。

1982年８月　北京大学歴史系本科、卒業。

1985年９月　北京大学歴史系碩士研究生（隋唐五代史専攻）、修了。

この間、1984年９月から1985年７月まで、オランダ・ライデン大学の中国研究所の客員研究員。あわせてイギリス、フランス、ドイツ、デンマーク、およびスウェーデンなどで資料蒐集に従事。

1985年９月　北京大学歴史系、中国中古史研究中心の助教に就任。

1987年９月　同　講師。

1988年９月　同　副教授。

1990年９月から1991年２月まで、日本・龍谷大学の仏教文化研究所の客員研究員。

1990年12月現在　敦煌研究院兼任副研究員、中国敦煌吐魯番学会理事。

このほか、西域文化読書会、中亜文化協会、唐史学会、および蔵学中心などのメンバー。

◆榮 新 江 先 生 著 作 目 録

A 論 文（表題のまえの＊印は、張廣達先生との共著であることを示す）

（１）＊「関于唐末宋初于闐国的国号・年号及其王家世系問題」北京大学中国中古史研究中心編『敦煌吐魯番文献研究論集』北京 中華書局 1982年 179～209

（２）＊「和田、敦煌発現的中古于闐史料概述」『新疆社会科学』1983年第４期 78～88

（３）「敦煌巻子札記四則」北京大学中国中古史研究中心編『敦煌吐魯番文献研究論集』第２輯 北京 北京大学出版社 1983年 631～673

（４）＊"Les noms du royaume de Khotan, Les noms d'ère et la lignée royale de la fin des Tang au debut des Song", Contributions aux études de Touen-houang, Ⅲ(Paris,1984), 23～46, pls. Ⅰ～Ⅳ.

（５）「遼寧省檔案館所蔵唐蒲昌府文書」『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1985年第４期 29～35

（６）「欧洲所蔵西域出土文献聞見録」『敦煌学輯刊』1986年第１期 119～133

（７）＊「敦煌『瑞像記』、瑞像図及其反映的于闐」北京大学中国中古史研究中心編『敦煌吐魯番文献研究論集』第３輯 北京 北京大学出版社 1986年 69～147,図二〇～三四

（８）＊「于闐佛寺志」『世界宗教研究』1986年第３期 140～149

（９）「帰義軍及其与周辺民族的関係初探」『敦煌学輯刊』1986年第２期 24～44

（10）＊「敦煌文書Ｐ．３５１０（于闐文）《従徳太子発願文（擬）》及其年代－《関于于闐国的国号年号及其王家世系問題》一文的補充－」敦煌文物研究所編『１９８３年全国敦煌学術討論会文集』文史・遺書編（上冊） 蘭州 甘粛人民出版社 1987年 163～175

（11）「従敦煌的五台山絵画和文献看五代宋初中原与河西于闐間的文化交往」『文博』1987年第４期 68～75

（12）「九、十世紀于闐族属考辨」『新疆社会科学』1987年第４期 76～83

（13）＊"Notes à propos d'un manuscrit chinois découvert a Cira de Khotan", Cahirs d'Extrême-Asie:Revue de l'Ecole Française d'Extreme-Orient,Section de Kyoto,No.3 (1987) 77～92.

（14）「吐魯番的歴史与文化」胡戟・李孝聡・栄新江編『吐魯番』西安 三秦出版社 1987年 26～85, 図１～16

☆和訳：青木茂・關尾史郎訳註「吐魯番の歴史と文化」（Ⅰ）～（Ⅳ・未完）『吐魯番出土文物物研究会会報』第34, 35, 47, 48号 1990年 １～６（第34号のみ、１～５）

（15）「吐魯番文書《唐某人自書歴官状》所記西域史事鉤沈」『西北史地』1987年第４期 53～55

（16）＊「巴黎国立図書館所蔵敦煌于闐語写巻目録初稿」北京大学中国中古史研究中心編『敦煌吐魯番文献研究論集』第４輯 北京 北京大学出版社 1987年 90～127

（17）＊「《唐大暦三年三月典成銑牒》跋」『新疆社会科学』1988年第１期 60～69

（18）＊「関于和田出土于闐文献的年代及其相関問題」『東洋学報』第69巻第１・２号 1988年 59～86

（19）「敦煌文献和絵画反映的五代宋初中原与西北地区的文化交往」『北京大学学報』1988年第２期 55～62

（20）「敦煌的興衰及其在中国歴史上的地位」『文史知識』1988年第８期 23～29

（21）＊「有関西州回鶻的一篇敦煌漢文文献－S.6551講経文的歴史学研究－」『北京大学学報』1989年第２期 24～36

（22）「晩唐帰義軍李氏家族執政史探微」『文献』1989年第３期 87～100

(23) *「上古于闐的塞種居民」『西北民族研究』1989年第１期　172～183
(24) *「関于敦煌出土于闐文献的年代及其相関問題」『紀念陳寅恪先生誕辰百年学術論文集』北京　中華書局　1989年　284～306
(25)「関于沙州帰義軍都僧統年代的幾個問題」『敦煌研究』1989年第４期　70～78
(26)「沙州帰義軍歴任節度使称号研究」中国敦煌吐魯番学会編『敦煌吐魯番研究論文集』上海　漢語大詞典出版社　1990年　768～816
(27)「小月氏考」『中亜学刊』第３輯　1990年　48～63
(28)「新出吐魯番文書所見唐代西域史事二題」北京大学中国中古史研究中心編『敦煌吐魯番文献研究論集』第５輯　1990年　339～354
(29)「《唐刺史考》補遺」『文献』1990年第２期　80～94
(30)「敦煌學研究揭開晩唐五代宋初西北史的新篇章」『中国文化』第２輯　1990年　７～９
(31)「沙州張淮深与唐中央朝廷之関係」『敦煌学輯刊』1990年第２期　１～13
(32)「従《海州大雲寺禅院碑》看海州在唐与新羅文化交往中的地位」張殿臣他編『連雲港与海上絲綢之路』北京　海洋出版社　1990年　183～200
(33)「通頬考」『文史』第33輯　1990年　119～144
(34) "mThong-Khyab or Tong-jia　通頬：A tribe in the Sino-Tibetan frontiers in the 7th－10th centuries", Monumenta Serica(forthcoming).
(35)「龍家考」『中亜学刊』第４輯（待刊）
(36)「曹議金征甘州回鶻史事表微」『敦煌研究』1991年第２期（待刊）
(37)「公元十世紀沙州帰義軍与西州回鶻的文化交往」第二届敦煌学国際研討会（1990年７月　於台北）提出論文
(38)「張氏帰義軍与西州回鶻的関係」敦煌研究院1990年敦煌学国際学術討論会（1990年10月　於敦煌）提出論文
(39)「唐宋時代于闐史概説」『龍谷史壇』（待刊）
(40)（尚林、方広錩と共著）「中国所蔵「大谷収集品」概況」龍谷大学西域文化研究会（待刊）

B　翻　訳
（１）烏瑞「有関公元７５１年以前中亜史的蔵文史料概述」『蔵族研究訳文集』第２輯　1983年　93～107
（２）烏瑞「ＫＨＲＯＭ（軍鎮）：公元七至九世紀吐蕃帝国的行政単位」『西北史地』1986年第４期　106～113
（３）彼得森「哥本哈根皇家図書館蔵敦煌写本」『敦煌学輯刊』1987年第１期　132～137
（４）宇野順治「民主徳国科学院蔵西域出土仏典的国際合作研究情況報告」『中国史研究動態』1987年第８期　30～33
（５）井之口泰淳「于闐語資料所記之尉遅王家的系譜和年代」『新疆文物』1988年第２期　１１３～124
（６）蒲立本「鋼和泰蔵巻年分考」『新疆文物』1988年第２期　125～131
（７）哈密屯「公元851-1001年于闐年号考」『新疆文物』1988年第２期　133～138
（８）貝利「于闐王国」『新疆社会科学研究』1989年第３期　37～43

C　その他
（１）「法国科研中心敦煌文献研究組的研究工作」『中国史研究動態』1981年第９期　27～28
（２）「欧洲所蔵西域出土漢文写本調査随記」『中国史研究動態』1986年第10期　24～29

（３）「台北“敦煌学国際研討会”論文評介」『中国史研究動態』1987年第２期　22～28
☆再録：『敦煌学』（台湾）第13輯　1988年　181～189
（４）「池田温教授談海外敦煌吐魯番文書研究現状　附：池田温教授主要著作目録」『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1987年第１期　26～31
（５）「日本“敦煌学”研究簡介」『文史知識』1988年第８期　108～112
（６）「関于敦煌和田出土于闐文献年代問題研究概況　附：敦煌于闐文写本研究文献目録」『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1988年第１期　17～27
（７）「《中国所蔵敦煌写本聯合目録》編写芻議」『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1988年第２期　55～58
（８）「日本“青年敦煌学者協会”簡介」『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1989年第１期　23～28

このほか『中国大百科全書・中国歴史巻』、『敦煌学辞典』、および“Encyclopaedia Iranica”などの項目を執筆。

『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次（II）

吐魯番出土文物研究会編

【は　じ　め　に】

本誌の総目次については、総第１期（1984年第１期）から総第15期（1988年第２期）までを対象とした片山章雄編「『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次」を、その解題である片山章雄「『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』について」とともに、第19号（1989年８月15日発行）に掲載する機会があったが、その後、本号に特集した栄新江先生により、総第16期（1989年第１期）から総第18期（1990年第１期）までの三冊が将来されたので、ここに「『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次」の（II）としてこの三冊の目次を掲げることにした。体裁は前篇と全く同じである。

☆　　☆　　☆　　☆

■１９８９年第１期（総第１６期）／１９８９年６月刊　６９頁
「目録」（表１）
潘重規「関于《敦煌雲謡集新書》敬答任半塘先生」（１～７頁）
（中国敦煌吐魯番学会）「中国敦煌吐魯番学会常務理事会関于増補王東明同志為副秘書長的決定」（７頁）
方広錩「也談敦煌写本《衆経別録》的発現」（８～13頁）
馬大東「簡論隋唐書法中的経生体」（14～16頁）
耿　昇「法国学者推出敦煌学新作」（17～22頁）
栄新江「日本“青年敦煌学者協会”簡介－附：青年敦煌学者協会成員主要論著目録－」（23～28頁）
劉　方「日本“吐魯番出土文物研究会”成立－附：吐魯番出土文物研究会会員論著目録－」（29～34頁）
〈日〉小田義久／李徳龍訳「大谷探検隊在新疆境内的活動」（35～41頁）
辛　夷「《敦煌文学作品選》読後」（42～44頁）
（無記名）「郭在貽同志追悼会在杭州挙行」（44頁）

［学術信息］
趙崇民「西伯林《吐魯番蔵品》概要」（45～46頁）
王進玉「敦煌壁画中的科学技術」（47頁）
〈韓国〉李秀雄／鄭芳明訳「《敦煌文学》訳本“序文”」（48頁）
（王　点）「日本挙行法日中亜出土文書与檔案学術討論会」（49頁）
（王　点）「台湾挙行国際唐代学術会議」（49頁）
（王　点）「《漫歩敦煌芸術科技画廊》出版」（49～50頁）
（東　木）「《魏晋南北朝隋唐史資料》出版」（50頁）
高国藩「台湾敦煌学国際研討会論文綜述」（51～58頁）
師　勤「一九八八年敦煌吐魯番学著述資料目録」（59～69，34頁）

■１９８９年第２期（総第１７期）／１９８９年１２月刊　７０頁
「目録」（表１）
張鴻勲「敦煌俗賦《茶酒論》与“争奇”型故事」（１～11頁）
［青年論文選登］
徐慶全「高昌、西州時期量制考」（12～20頁）
張志勇「従吐魯番出土文書看唐代均田制的土地来源」（21～27頁）
韓建瓴「関于敦煌文学分類的一点浅見」（28～34頁）
王　珏「敦煌写本《西天路竟釈地》」（35～46頁）
〈日〉入矢義高／任道軒訳「関于王梵志」（47～59頁）
〈日〉長沢和俊／李徳龍訳「敦煌平民生活与社的関係」（60～64頁）
［国内敦煌吐魯番学研究機構簡介］
（盧秀文）「敦煌研究院簡介」（65頁）
（黎　蕾）「西域芸術研究会隆重召開成立大会」（66～67頁）
（辛　夷）「《敦煌石窟芸術論集》簡介」（68～69頁）
（徐　淳）「《敦煌曲子詞欣賞》読後」（69～70頁）
（丁　煌）「《敦煌医粋－敦煌遺書医薬文選校釈》出版」（70頁）

■１９９０年第１期（総第１８期）／１９９０年６月刊　７０頁
「目録」（表１）
金建民「関于《敦煌曲譜》和古譜学的論争」（１～８頁）
楊富学「海内外見刊回鶻文社会経済文献総目」（９～23頁）
〈法〉戴　仁／耿　升訳「敦煌的経折装写本」（24～30頁）
季羨林「関于“奈河”的一点補充」（30頁）
〈日〉入矢義高／任道軒訳「関于王梵志（続）」（31～44頁）
〈日〉高田時雄／梁海星訳「九－十世紀河西地区漢語方言考」（45～50，55頁）
遅　聞・陳　東「《敦煌変文集補編》読後」（51～55頁）
（無記名）「著名音楽理論家葉棟教授在瀘病逝」（56頁）
（劉進宝）「蘇聯列寧格勒蔵敦煌写本簡況－与緬什科夫（孟列夫）先生一席談－」（56～58頁）
［簡訊］
（楊　森）「列寧格勒蔵敦煌文献将在瀘出版」（58～59頁）
（楊　森）「孟列夫参観訪問莫高窟」（59頁）
師　勤「一九八九年敦煌吐魯番学著述資料目録」（60～70頁）
（以上）

覚書：武威出土の前涼木牘について

昨秋、国内でも入手可能になった李均明・何双全編『散見簡牘合輯』（北京　文物出版社・秦漢魏晋出土文献、1990年７月）には、中国各地から出土した簡牘類が出土地ごとに収録されているが、そのなかに「甘粛武威旱灘坡19号晋墓木牘」として、五点の木牘が紹介されている（26～29頁）。これは従来その存在が知られていなかったものだが、本書とほぼ時を同じくして入手した『文博』1990年第３期に掲載されていた田建「甘粛武威旱灘坡出土前涼文物」によれば、旱灘坡一九号墓は、甘粛省文物考古研究所が1985年の７月から８月にかけて発掘した二九基の西晋・「五胡」期の墓のうちのひとつであり、最も保存状態がよく、五点の木牘以外にも三点の俑、毛筆や筆筒などが出土したという。

さて五点の木牘の内訳は、（ａ）「建興卅三（三五五）年十二月本郡清行板」(M19:60／合輯245)、（ｂ）「建興卅四（三五六）年九月駙馬都尉板」(M19:60／合輯246)、（ｃ）「建興卅八（三六〇）年四月建義奮節將軍長史板」(M19:61／合輯247)、（ｄ）「升平十三（三六九）年七月姬瑜随葬衣物疏」(合輯248)、（ｅ）「咸康四（三三八）年十一月某女随葬衣物疏」(合輯249)である。前三点は男女合葬墓の男尸の胸部や頭部近くから出土したとのことだが、いずれも墓主である姬瑜の生前の任官書である。これによると、姬瑜は先ず清白異行に挙げられ、翌年には駙馬都尉、さらにその四年後には將軍府の長史に移り、その官を最高官としてさらに九年後に死去したことがわかる（前涼にあっても駙馬都尉が称号の一種であったことは、前後の王朝と同じであろう）。もちろん彼がこれら以外にもいくつかの諸官を歴任したことは木牘からもうかがうことができるが、合葬されている女尸が彼の妻、とくに公主であったとは考えられない。残念ながら田建氏は二点の随葬衣物疏には言及していないので、この点についてはなお今後の課題としたい。

さてこの五点の木牘に類似した史料は吐魯番出土文物のなかにもある。任官書については、阿斯塔那一七七号墓から出土した「承平十三（四五五）年四月追贈且渠封戴敦煌太守板」（詳細は周偉洲「試論吐魯番阿斯塔那沮渠封戴墓出土文物」〈『考古与文物』1980年第１期〉、参照）があるし、随葬衣物疏については例示に事欠かない。むしろ興味深いのは、様式や内容の点では大差が認められないにもかかわらず、吐魯番から出土した四世紀末期の随葬衣物疏はいずれも紙に書写されているのに対し、武威から出土した四世紀中期のこの二点は、ともに簡牘だという事実であろう。さらに言えば、吐魯番と武威の中間に介在する敦煌からは紙と簡牘とを問わず、現在まで随葬衣物疏のごとき文書は一切出土しておらず、陶罐や陶鉢がその機能を一部代行していたと思われる事実である（この点については、町田隆吉「敦煌出土四・五世紀陶罐等銘文について－中国古代における葬送習俗に関する覚え書き－」〈『東京学芸大学附属高等学校大泉校舎研究紀要』第10集、1986年〉、参照）。したがって紙の普及の問題とともに、葬送習俗の問題についても、新たな問題を提起していると言えよう。

また（ｅ）の「咸康」とは東晋の元号（三三五～三四二年）で、この時期武威を拠点とした前涼が東晋の元号を奉用していたことになるが、これも従来類例がなかったものである。前涼が複雑な国際関係のなかで様々な元号を奉用したことは疑いない事実なので、この元号を奉用した可能性も充分に考えられる。写真の公表をまって検討をすすめたいと思う。　　（關尾）

事務局（連絡先）　〒182 東京都調布市国領町５－19－14
荒　川　正　晴　方　　TEL　0424(81)4633
吐魯番出土文物研究会（The Research Society for Turfan Relics）